

老上中学校
学校だより
H29(2017).10.16

考動する老中

校訓
「自主・創造」

文責 辻本 長一

老中魂、ここに結集！

～ 老中祭「体育の日」「文化の日」～

体育の日、大会テーマは

「獅子奮迅～風を切って突き進め」

雲行きを心配しながら迎えた9月22日（金）、老上中学校グラウンドでは、次々と感動のドラマが繰り広げられました。力を合わせてがんばる姿、励まし合う姿、結果が決まっても最後まで力を出し切る姿、勝敗にかかわらずたたえあう姿・・・2学期に入り、学級や学年で取り組んで臨んだ一人ひとりの姿から、多くのがんばりが伝わってきました。

「体育の日」当日はもちろんのこと、それまでの取組を通して、級友のすばらしさを再確認したり、再発見したりできたのではないのでしょうか。

来賓や地域の皆さん、保護者の皆さんからも熱い声援をいただき、ありがとうございました。



オープニング：生徒会の演舞



文化の日、スローガンは「**百花繚乱**」

看板は美術部員の傑作！



「体育の日」の感動もさめやらない10月4日（水）、クレアホールでの「文化の日」。

吹奏楽部の発表、生徒会の発表、英語弁論発表、沖縄平和学習発表、そして合唱コンクール。どの取組からも、生徒の皆さんの高い創造性や探究心がうかがえました。

全校で取り組んできた学級単位での合唱。仲間を信じて歌う真剣な表情、きれいなハーモニーを追求しようとする姿、発表後に送られる大きな拍手、お互いの発表を心からたたえあう姿・・・ホール全体が感動と喜びで包まれ、色とりどりの花が咲きほこりましたね。

そして、この老中祭の企画と運営にあたった生徒会の皆さん、本当にご苦労さまでした。スムーズな進行だけでなく内容もとても充実していました。



生徒会の「ピンクシャツデー」を取りあげたいじめ防止を啓発する発表にも心を打たれました。

いじめは難しい問題だけど、誰もが気持ちよく生きていくために、みんなで考えていかなければならないこと。「いじめはしていないから自分は関係ない」のではなく、全員が深く考え許さない態度をもつことが解決への道なのでしょう。生徒会の自作ビデオにはそんなメッセージがこめられていたと思いました。

ピンクシャツデーとは、2007年カナダのふたりの学生からまたたく間に広がった世界的いじめ反対運動です。ある日、ピンクのシャツを着て登校した少年が「ゲイ」だといじめられました。それを見た二人の学生がピンクのシャツを友人に配り、呼びかけに賛同した多数の生徒がピンクのTシャツを着て登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなりました。そのエピソードが SNS などで世界中に広まりつつあります。

合唱コンクールを終えて、審査員の畑先生から賞賛のコメントをいただきましたが、合唱だけでなく老中祭すべてが、老中生でしか築くことができない老上中学校の文化と伝統となり、さらなる進化をめざしてバトンの後輩へとたくすものになったと実感しました。



廊下で歌の練習
自分たちで考え、より良いものを追求しました！

学びは何のため？

過日、私の家のポストに封書が届きました。差出人を見ると、16年前に前任校で教えた卒業生でした。

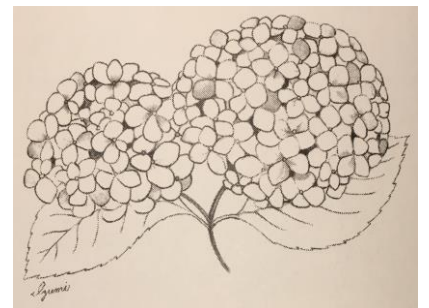
手紙には当時、英語の授業で英語劇をした思い出、大学での学びを活かして絵本を制作中であること、そしてもうひとつ、数日前に亡くした祖母の兄とともに小冊子づくりに心を注いでいたことが記されており、その小冊子も同封されていました。

自分の人生の歩みや想いを家族にのこしたいと思いながらも、病気のために余命わずかとなり左半身がまひした祖母の兄。そんな祖母の兄を前にして、その想いをカタチにできるよう力になりたいと決意、大学在学中に出版社で学んだことと得意な絵も活かして、小冊子の編集に取り組んだそうです。

今、皆さんが勉強しているのは何のためなのでしょう。めざす学校に入るため？お金をもうけるため？望む職業につくため？社会でひとり立ちをするため？・・・考え方はさまざま、答えは一つではないでしょうね。今の学びがすぐに役に立つということはそれほど感じないかもしれませんが、これからの人生のなかでいろいろな形できっと役に立つことなのでしょう。

自分の学びを活かしてこんなふうに関に立ちたい、と考え実行した彼女に敬意を表したいと思います。そして、その小冊子を読ませていただき、新たな学びと生きる力をいただきました。

自分の学びや行いが人のためになること、人に喜ばれること、あるいはそうしようと思えること、そのことはひいてはお互いの幸せとなるのでしょう。



小冊子の挿絵（作：卒業生）より